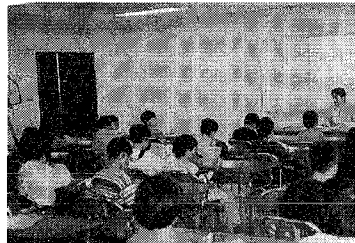




## 小須戸小4年生が 下水処理現場見学



毎年9月10日は、「全国下水道促進デー」として今回は、10月に小須戸・矢代田各小学生4年生の課外授業として、下水処理場、新津浄化センターの施設見学を行いました。小学4年生は、水の学習をする中で下水道の処理場見学が実現しました。今後も学校関係者と相談して4年生の学習に協力をしていきたいと思えます。

住民に安全で快適な生活を確保し、公共水域の水質汚濁防止の為に、引きつづき積極的な整備を推進します。

## ヤッター 小須戸保育園運動会



9月29日(日)、雲ひとつない秋晴れの中、小須戸保育園の運動会が行われました。

親子揃っての入場行進から5才児リレーまでの全14種目にみんな元気いっぱい頑張っていました。特に親子競技のおんぶ騎馬戦はお父さん、お母さんが本気になって大にぎわい。

みんなで楽しんだ一日でした。

## 秋晴れの中さわやかにウォーキング



10月11日、保健福祉課主催で「運動のつどい」が開催されました。朝日歩こう会会長の荒木先生からウォーキングの効用について講義をお聞きしたあと、全員で3・4kmをウォーキング。途中で、歩数と脈拍をチェックしながら秋晴れの中、さわやかな汗を流しました。

## 広報クイズ

- ① 11月9日は ○○○○ の日
- ② 10月20日に行われた衆議院選挙の正式名称は ○○○○○○○○ 制

ヒント ⇨ 広報をよく読んで…

正解者には抽選で3名の方に記念品を進呈。

### ★応募方法

裏	表
クイズの答え ① ② 住所氏名 電話番号 町に対するご意見 ご希望等	956-01 小須戸町大字小須戸120 役場総務課 企画財政係 行

★締め切り 11月15日(消印有効)

### 9月号のクイズの答え

- ① 危険です「見えてるはずだ」の思い込み
- ② 163人
- ③ 第7位

当選者 中野 慶一さん(小 向)  
井上 ゆきえさん(新栄町5)  
リリー 軍さん(矢代田11)

お呼ばれや冠婚葬祭などには、やはり着物で、という人が少なくありません。大切な着物をいつまでも美しく着るためには、着終わった後の手入れがポイントになります。

### 暮らしのワンポイント

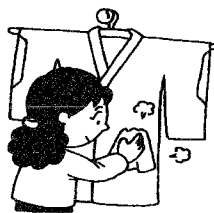
### 着物の手入れと保管

脱いだらすぐに着物用のハンガーに掛け、半日から一日陰干しにして湿気を取りましょう。手入れはなるべく早く、明るい清潔な場所です。まずは、ビロードの布や毛の柔らかいブラシで布に沿って軽くたたくように全体のほこりを落とします。

その際、しみや汚れもチェック。衿や袖口の汚れは、着物の下に白いタオルを敷き、ベンジ

ンを含ませたガーゼでたたいて落とします。汗をかいた部分の汚れは、霧を吹きかけて白いタオルをあて、軽くたたけば落ちますが、時間がたつて変色して

が必要ですが、しみの成分、布地の色や種類によってしみ抜きの方法が異なります。水をつけただけで変色する布もあるので、不安な場合は専門家に相談を。



いたら、クリーニング店など専門家に任せたい方がいいでしょう。裾についた泥はねは、すぐにいじらず、完全に乾いてから軽くもむか、柔らかいブラシで落とします。

しみには、一刻も早い手当て

ひと通りチェックがすんだら、着物の裏から当て布をしてアイロンをかけ、きちんとたたみま

す。保管は一着ずつ畳紙か木綿の大風呂敷に包み、重ね過ぎないように浅めの引き出しにしま

います。畳紙を通して色が移る

隅に置きます。着物に向かないものもあるので注意してください。

たまにしか袖を通さない着物だからこそ、着終わった後の手入れをきちんとし、末永く大事にしたいものです。



### 雪囲い

雪囲ひして居り明日は出稼に 米田一穂『万緑』

よその家より早めに雪囲いの作業に精を出しているのでしょうか。それとも、早々と雪囲いを仕上げ、これで安心してひと冬家族を置いて出稼に出られると、安堵している風情の家を見かけたのでしょうか。いずれにしても、雪国の初冬の風景です。

雪囲い——昔は雪国ではおなじみの風景でしたが、最近では家の構造の変化のため、見ることが少なくなってきました。風雪を防ぐために家の周囲や出入口に丸太や竹を組み、わら、よしずなどを取り付けるものです。また、井戸やトイレ、便所が屋外にある場合は、これにも雪囲いをしました。草木や野菜にもわらやむしろで囲いをします。雪囲いができ、たぎぎの準備ができる冬は、冬支度の準備が完了とほっとしたのでしょうか。

雪囲いとは別に、庭木の枝が雪で折れるのを防ぐ雪つりは、冬の風物詩としてよく知られています。金沢の兼六園の様子が、テレビで放映されるのをご覧になった方も多いことでしょう。

ところで、一年のうちで十一月から三月の間は雪が降る日が多くなり、暖房器具を使うことが増えるので、火災の多いシーズンでもあります。そこで、十一月九日から十五日は「秋の全国火災予防運動」が実施されます。日本では建物火災による死者の九割が住宅火災によるものです。消火訓練には積極的に参加しましょう。

